

教育目標		地域と協働し、人としてたくましく生き抜く誇り高さ「あだっこ」を育てる。 ～ やさしく・かしこく・たくましく ～					総合評価
運営方針		地域や家庭と協働しながら、自ら課題をもち、自ら考え、判断し、自ら解決・創造する活動を通して、自主性や主体性、自尊感情等を育み、人として自立・自律できる児童を育てる。					
平成29年度の成果と課題		本年度の重点目標		具体的目標			
<p>【成果】</p> <p>○「特別の教科道徳」に向けて学習指導要領の目標や評価について研修を重ねることができた。</p> <p>○予習を起点とした学習スタイルを家庭学習に位置づけて進めることができた。</p> <p>○授業プランシートの周知と活用を図ることができた。</p> <p>【課題】</p> <p>●国語科の「言葉の力」や各教科の言語など、学びの基礎となる語彙力が弱い。</p> <p>●生活アンケートより基本的な生活習慣に課題が見られた。</p> <p>●お互いの良いところ・頑張りを認め合う取組の継続が必要である。</p>		<p>(豊かな心)</p> <p>・道徳の時間を中心にさまざまな教育活動を通じて、人としてよりよく生きようとする道徳性を養うとともに、ふるさとに誇りをもつ児童を育てる。</p>		<p>○児童一人一人の心に響く日々の道徳教育を核にして、互いに認め合う心や自立・自律の心を育てる。</p>			A
		<p>(確かな学力)</p> <p>・自己の思考を働かせ言葉への自覚を高めるとともに、適切な言語活動を通して、正確に理解し適切に表現できる児童を育てる。</p>		<p>○国語科を中心に、つきたい力を見極め言語活動を大切に授業に取り組み、国語の力を育てる。</p>			
		<p>(健やかな体)</p> <p>・基本的生活習慣の定着を図るとともに、体力向上を目指して運動に積極的に親しもうとする児童を育てる。</p>		<p>○基本的生活習慣の見直し・点検を通して、自分の健康や安全について自ら改善していこうとする意欲と実践力を育てる。</p>			
		<p>○運動に積極的に取り組み、運動する楽しさを味わわせるとともに、自分の体力を少しでも高めようとする意欲を育てる。</p>					
評価項目	具体的目標(評価小項目)	具体的方策・評価指標		自己評価結果	成果と課題(評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策
豊かな心	○児童一人一人の心に響く日々の道徳教育を核にして、互いに認め合う心や自立・自律の心を育てる。	○児童が日常生活と重ね合わせて考えることができ、更に友だちとの意見交流を通して、互いに考えを深め合えることができる道徳の授業を行う。		A	○日常生活と結びつく資料等を提示・学習することにより、授業の中だけでなく、学校生活の中でも、道徳的実践力の育成につながる取組みができた。	○教育活動全体を通して道徳性を養う中で、自らを振り返ったり、お互いのことを認め合える場を作ったりしてきた。「あったかの花」カードを活用することで、全校へ紹介し自尊感情の向上を目指すことができた。	○交流学习に対応してくれているのがよかった。
		○あったかカードを活用し、正しいことを進んで行う態度や努力する態度を育む。また、他者にも目を向け、良いところを認めたり、それを模範として行動したりする心や態度を育てる。		A			
	○主体的に地域に関わり、地域に貢献しようとする意欲や態度を育てる。	○地域の協力を得る活動・共に行う活動・貢献活動を推進する。		B	○各学年の学習で必要に応じて授業支援して頂いたり共に活動を行うことができた。	○地域の方の協力や共に行う活動は多かったが地域貢献活動は少なかった。	○地域の方に協力・支援を頂くだけでなく、地域貢献活動を含めた活動計画を立てて実施する。
○各学年に応じた『ふるさと魅力化プロジェクト』を推進し、その成果を保護者や地域に発信する。		A	○地域の方に学習支援していただいたことを阿太町集会で発表することができた。	○年間計画作成時からつきたい力を意識した学習計画を立てることが必要だった。			
確かな学力	○国語科を中心に、つきたい力を見極め言語活動を大切に授業に取り組み、国語の力を育てる。	○国語科の授業における、「正確な理解」につながる言語活動のあり方を計画的に考えて、主体的・対話的で深い学びが展開される「わかる授業づくり」を進める。		A	○全学年公開授業を行った。各学年部会で授業研究する機会をもった。「正確な理解」につながる言語活動について考えを深め、国語科(読むこと)の授業づくりについて、基礎・基本を身につけることができた。また、講師の指導を受け、「正確な理解」につながる言語活動の在り方について学ぶことができた。	○今年度の研修を今後の国語科の授業に生かし、「読むこと」から他の指導項目の研究に広げていく。「正確な理解」につながる言語活動と授業プランシート(評価の観点)は対応しているため、普段からはもちろん、授業交流などで活用を意識していく。	○何が一番大切なのか考えるとこれまでのことだけでなく、統合に向けた計画・運営が必要。
		○全学年自主公開授業を行い、研究協議を行う。授業プランシート・チェックシートを活用し、「正確な理解」につながる言語活動を取り入れた授業づくりを進める。		A			
	○読書や自主学習などの基本的な学習習慣を身につけさせることにより、学習に積極的に取り組む意欲や態度を育てる。	○一週間に「一冊読破」、「読書感想文を書く」という読書活動を進めることで、正確な読み取りや適切な表現力と語彙力を養う。		A	○週に2度の読書タイムを確保したり、各学年に応じた読書活動をしたり、読書の習慣が身につく、積極的に読書をする児童が増えた。正確に読み取る力や表現力が高まった児童も多く見られる。	○今年度の読書活動実践をもとに、発達段階に応じた語彙力や読解力を意識して、来年度の取組を計画していく。児童の読書に関する意欲向上を図りたい。	○これまで取り組んできた基礎学習や自主学習を継続し、全校で意欲的に取り組むことのできる活動を取り入れる。
○学年に応じた基礎学習・自主学習(予復習)を起点に、基本となる力をつけることによって、意欲的に授業に取り組もうとする態度を育てる。		A	○学年ごとの交流や、手本となる自主学習ノートの掲示をし学年ごとの段階に応じた交流を行うことができた。また、手本を示したり作成したノートの評価をすることで児童の学習の意欲が高まり、自主学習の内容や質を向上させることができた。				
健やかな体	○基本的生活習慣の見直し・点検を通して、自分の健康や安全について自ら改善していこうとする意欲と実践力を育てる。	○日々の健康観察・清潔調べを通し、自分の心身の状態を把握したり、身だしなみを整えて生活を送ったりすることで自己管理能力を高める。		A	○毎日健康観察や清潔調べを行うことで自分自身の心身の状態を知ったり身だしなみに気をつけたりしようとする意識の向上に取り組んできた。更なる自己管理能力の向上を目指したい。	○学級懇談・終わりの会等で呼びかける必要がある。	
		○保護者と連携し「あだっ子元気もりもりカード」(早寝早起・朝ごはんを基本とした生活チェック)を学期に1度実施し基本的生活習慣の定着を図る。		B			○引き続き、規則正しい生活や心身の健康についての保健指導の充実を目指したり、家庭と連携し更なる啓発に努めたい。
	○運動に積極的に取り組み、運動する楽しさを味わわせるとともに、自分の体力を少しでも高めようとする意欲を育てる。	○日常的に身体を動かすことを通して、運動や外遊びの楽しさを味わわせるとともに、意識をして体力の向上に努める。		A	○1学期と2学期の体力テストの結果を比べると、どの項目でも能力の向上が見られた。また、ほぼ全ての児童が休み時間に運動場で遊ぶようになった。	○体力づくりの取組では、様々な運動を行ったが、その運動一つ一つの有効性は測れなかった。次年度続けるのであれば、運動内容の精選を行わなければいけない。	
○自己目標の達成・向上に向けて、夏期水泳クラブ、冬期駅伝クラブ(中・高学年)、あだっこAC(低学年)を開設する。活動を通して、体力向上・ねばり強くやりぬく心を育む。		A	○水泳クラブ・駅伝クラブでは、ほぼ全ての児童が練習に参加し、体力を高めることができた。その中で、半数以上の児童が記録会などの行事に参加することができた。				
今年度の成果と次年度への課題		<p>【成果】</p> <p>○道徳性の育成を学校生活全体で、育むことができた。また、保護者や地域の方に協力・支援を頂いたことで、ふるさとの大切さを認識できるようになってきた。</p> <p>○予習を起点とした学習活動や様々な読書活動により、「正確な理解」に繋げることができるようになってきた。</p> <p>○発達段階に応じた学びを、期間限定で教員が入れ替わって指導することができた。</p>		<p>【課題】</p> <p>○統合を見据え宇智小との交流の機会を用いて、他者に目を向け良いところを認めたりする力を伸ばすことが必要。</p> <p>○国語科や読書活動だけでなく、全教科で発達段階に応じた語彙力や読解力を意識し、来年度も取組を継続する。</p> <p>○必要に応じ、集団だけではなく個別の保健指導も実施するようにする。</p>			